

2018年度教育力向上研修・講座概要

第1回	分野：「高等教育論（A）」（必修） テーマ：「大学におけるFD活動の現状と課題」	開講日時
		6月4日（月） 18：15～19：45 ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	井上 史子（教授）	
到達目標	①なぜ、FDが必要なのかを説明できる（知識理解） ②大学におけるFD活動の現状について説明できる（知識理解）	
事前学習 課題	①映像資料「沖永帝京大学学長×フィンク博士 FD 対談」（CTL ホームページ https://apps.main.teikyo-u.ac.jp/~ctl/newsletter/fd_talk.html ）を視聴する。 ②映像資料「カテゴリ：高等教育リテラシー形成、テーマ：『大学教員の役割とキャリアステージ』、講師：羽田貴史（東北大学） http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/ 」を視聴し、自身の研修目標（研修に期待することや、授業改善目標など）を考えてくる。	
概要		分
phase 1	<p>※ 開始前に、全員で自己紹介を行います。</p> <p>●大学をめぐるさまざまな課題とFD/SDの動向（共有化フェーズ）</p> <p>①少子高齢化の急激な進展と大学に期待される役割</p> <p>②日本や海外の高等教育政策の動き</p>	20
Phase 2	<p>●教員研修の構造について（共有化フェーズ）</p> <p>①本研修の設計と目標について</p> <p>●高等教育開発センターが提供するFD活動の紹介（共有化フェーズ）</p> <p>①教育方法研究支援室とIR推進室の活動</p> <p>②各種教員研修とSCOTについて</p> <p>③SoTLプロジェクト2018について</p> <p>④帝京FDネットワークについて</p> <p>⑤教育関係共同利用拠点事業について 他</p>	30
phase 3	<p>●グループディスカッション（表出化・連結化フェーズ）</p> <p>①自身の研修目標（授業改善目標など）についての意見交換</p>	20
事後学習 課題	・振り返りシートの作成と事後アンケートの記入（内面化フェーズ）	10
参考文献	<p>1. 映像資料「カテゴリ：高等教育リテラシー形成、テーマ：『大学教育改革のトレンドと日本が目指すべき21世紀の学士課程教育像』、講師：小笠原正明（北海道大学） http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/」を視聴し、21世紀の大学が目指す学士教育や大学教員のあり方等について基礎的知識を得る。（※講座内でのビデオに関する解説などは行ないません。映像に関する視聴手続き等は受講開始前に案内します。）</p> <p>2. 東北大学高度教養教育・学生支援機構 刊行物より、『ファカルティ・ディベロップメントを超えて - 日本・アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリアの国際比較』（2009年、http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=700）</p> <p>3. ジョン・タグ「教育から学習への転換—学士課程教育の新しいパラダイム」『主体的学び』（創刊号）（東信堂、2014年）</p>	

2018年度教育力向上研修・講座概要

第2回	分野：「教授・学習論(A)」(必修) テーマ：「シラバスと授業の到達目標の書き方」(演習)	開講日時	
		6月25日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア TNec041 教室	
講師	宮原 俊之(准教授)		
到達目標	①シラバスと授業の到達目標を観点別に行動目標で表現できる(技能) ②シラバスと授業設計の関係性について説明できる(知識理解)		
事前学習課題	1. 映像資料「カテゴリ：高等教育リテラシー形成、テーマ：『授業デザインとシラバス作成』、講師：串本 剛(東北大学)」を視聴し(時間がない方はチャプター1と2)、シラバスと到達目標に関する基礎的知識を得る。 「 http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archive/detail.php?id=67 」から視聴できます。なお、講座内でのビデオに関する解説などは行ないません。 2. 自身のシラバスを3部印刷し持参してください。時間がある方は、1で得た知識をもとに自身のシラバスを見直してください。		
概要			分
phase 1	●現状の確認(共有化・表出化フェーズ) ・現在、シラバスを作成するときに気を付けていることについてグループで共有します。		15
phase 2	●学習者中心のシラバスとは(共有化・表出化フェーズ) ・シラバスの機能と役割について解説します。特に到達目標の書き方に注目します。また、高等教育開発センターに所属するSCOT学生が語る動画「学生の目線からみたシラバス」について視聴し、学生目線のシラバスについても考えます。		30
Phase 3	●全体での情報共有(連結化・内面化フェーズ) ・phase1での意見交換やphase2で得たことを踏まえて、自身が作成したシラバスを見直します。 ・改善点や気づきについてグループ内で発表し合い、情報共有と意見交換を行ないません。 ・グループ内での意見交換における気づきを全体で共有します。 ・質疑応答		45
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成(講座内で作成できなかった場合) 2. 演習での学びを活かし、シラバスの改善点を研修総括レポートに記述する		
参考文献	1. 佐藤浩章著『高等教育シリーズ：大学教員のための授業方法とデザイン』玉川出版、2010 2. L. ディー・フィンク 著、土持ゲーリー法一 監訳『高等教育シリーズ：学習経験をつくる大学授業法』玉川大学出版、2011		

2018年度教育力向上研修・講座概要

第3回	分野：「教授・学習論（A）」（必修） テーマ：「大学授業の成績評価～評価基準の設定」	開講日時	
		7月30日（月） 18：15～19：45 ソラティオスクエア TNec041 教室	
講師	井上 史子（教授）		
到達目標	①学習成果の適切な評価方法を知り、自身の授業で活用できる（知識、技能） ③客観的な成績評価と学習者への適切なフィードバックを心がける（態度）		
事前学習 課題	1. 映像資料「カテゴリ：高等教育リテラシー形成、テーマ：『授業デザインとシラバス作成』、講師：串本 剛（東北大学） http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archive/index.php?page=1&search=&c=1&k=&p= 」を視聴し、成績評価に関する基礎的知識を得る。（※講座内でのビデオに関する解説などは行ないません。映像に関する視聴手続き等は年度初めに案内します。） 2. 1を視聴し、成績評価に関する自身の課題などをまとめてくる（形式自由）。 3. 自身が授業で用いている成績評価方法に関する資料があれば持参する。		
概要			分
phase 1	●グループ内での意見交換（共有化・表出化フェーズ） 1. 講師より、成績評価の手続きに関する基礎的な知識提供を行います。 2. グループになり、事前課題2、3について意見交換を行います。		30
phase 2	●全体での情報共有（連結化フェーズ） phase1での意見交換の結果をグループごとに発表し、全体での情報共有を行ないます。次に、「授業の参加度に関するルーブリック」の点検と修正の作業を通して、評価基準の調整（モデレーション）をグループ内で体験します。		45
phase 3	●振り返り（内面化フェーズ） 振り返りシートの作成および講師を交えての質疑応答を行ないます。		15
事後学習 課題	1. 振り返りシートの作成（講座内で作成できなかった場合） 2. 講座での学びを活かし、今年度の授業で行なった成績評価の方法や改善点を研修総括レポートに記述する。		
参考文献	1. ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ著、佐藤浩章監訳、井上敏憲、俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版 2. 松下佳代「パフォーマンス評価による学習の質の評価—学習評価の構図の分析にもとづいて—」、京都大学高等教育研究第18号、2012、pp.75-114 3. 溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』、東信堂、2014 4. 梶田叡一『教育評価』、有斐閣双書、2005 5. AAC&U (Association of American Colleges & Universities) http://www.aacu.org/value/rubrics/		